

就職先のビルからみえる

都会の景色です！



SSKP はばただより vol.133

就職
おめでとう！

就労移行支援



～工房時～



2年前から工房時の製麺部（B型）で働いてきた松田さん。もともと就労経験もあり、ご本人いわく「もう少し骨のある仕事がしたい！」ということで、この春から就労移行・店舗部に異動しました。

そんな矢先にご縁のあった企業さまからお話をいただき、なんと4月のうちに就職が決定！虎の門のとあるビルの、社員食堂や厨房の清掃が主な仕事です。

少しさびしさもありますが、遠い電車通勤もものともせずに颯爽と仕事をこなしていくご本人の姿や、生き生きとした表情をみると「その人の持っている力」の意味をあらためて感じることができます。今後も工房時の就労支援員を中心に定着支援を続けていくとともに、「土曜日はおもむく食堂にうどん食べにくるよ」という松田さんが、どんな土産話をしてくれるか…楽しみです！



社会福祉法人おおぞら会

小規模多機能型居宅介護

野ざきの家

新年度が始まり、野ざきの家は3月、4月にたくさんの新しい利用者さんが加わりました。苦節6年、今までで一番の登録者数となっています。その中で、前回の「はばただより」で利用者さんの募集をして、それをご覧になった方より早速の利用申し込みがありました。「はばただより」が地域の方々に認知されているんだなあと実感し、地域と共に歩んできた長い歴史があり今があるのだと思いました。はばただよりでは、今まで「野ざきの家」の紹介は施設行事のことが中心で、そして前回はちょっと視点を変えて職員紹介を試みたり…少しでも職員の人柄、野ざきの家の雰囲気を感じていただけたらと思いますが「うまく伝えるのって難しいなあ」と日々悩むところです。それでも懲りずに「野ざきの家を知ってもらいたい」一心でこれからも書いていきたいと思っています！では、さて今回は…。とある野ざきの家の一日をご紹介します。

朝のミーティング

来られる方の必要な支援の確認、送迎や「訪問」の担当者を割り振り、一日の過ごし方を“大まか”に決めます。なぜ“大まか”なのかは皆さんの体調やその日の気分、「こう過ごしたい」を確認する必要があるからです。それを引き出す工夫が職員のスキルであると思っています。計画は複数準備しておき、状況に合わせて活動内容の変更を行います。各自の役割が決まれば持ち物やお迎え時間の確認をし、いざ出発です。



みなさんで過ごす時間、それぞれの時間…ゆったりと和やかに

野ざきの家に着いたら検温や血圧測定し一日が始まります。入浴サービスを受ける方や職員のお手伝いをされる方…それぞれの時間を過ごします。そんな中、皆さんの気持ちが一つになるような活動も提供します。クイズやゲーム、体操。集団が苦手な方の思いも尊重しながら、私たちの関わり方で“その人なりの参加”を引き出せるようにしています。

昼食では、慣れた手つきでお手伝いして下さる方もいます。丁寧で美しい盛り付けは、これまでの生き方が見えるようです。「大勢で食べる食事は美味しいね」そんな言葉をお一人暮らしの方からよく聞きます。お昼ごはんは通いのよさが感じられる時間のひとつです。

午後はお一人お一人に色々な活動の提案をします。工作やゲーム、読書、散歩、昼寝も。その方が好きな過ごし方で過ごしていただきます。季節や天候が良ければ屋外活動にも行き、季節を楽しみます！



野ざきの家には「ケアマネジメント」機能あり、計画と支援が一体的かつ即座に対応できるメリットがあります。ゆっくりとした時間が流れながらも、お一人お一人の変化を見逃さないよう、活動に限らず、生活の変化にも十分注意し、その方の在宅生活全般を支援します。困った時二の足を踏まずに対応できる…そのスキルアップをこれからも目指していきたいです。その先には利用して下さっている方の「その人らしい生活」の実現に向けて。

(管理者 齋藤貴彦)

つなぐなかまの家 【共同生活援助】



4月のとある明け方に、キッチンで…がさごそ。入居者のAさんがトースターにスイッチを入れ、コップ1杯ほどの砂糖をあたためていたそう。事なきを得たがヒヤリ…である。以前からもAさんは、深夜から明け方になるとキッチンへ足が向くことがあり、職員の間からも「キッチンに壁のような仕切りと扉を付けたほうが安心じゃない？」といった話がたびたび上っていた。普通の一軒家を改修した建物であるこのホームは元々仕切りも扉もない。利用者の特性上もこれまで必要としてこなかった。安全面を考えれば、壁と扉を作り鍵の施錠でキッチンを管理するというのは最も理に適った方法ではあるのだが、何かしっくりこないモノがあった。

扉によって締め出す人（職員）と、締め出される人（入居者）という関係をつくってしまうのではないかな…。支援者である私たちには、どんな状況の時でも当事者の人たちを受けとめること、お互いの信頼関係を日々築いていくことこそが、何よりも大切なのではないかな。そしてそれにはとても時間がかかるのだ。壁や扉を取り付けるのは簡単であるし、場合によっては必要かもしれない。が、それはAさんも周りもみんなが「Aさんのためにつけた扉」と嫌がおうにも認識するものだ。職員にとっての「安心できる住まい」とAさんにとってのそれは、同じ「壁」や「扉」で得られるのだろうか。

数日経ち、なぜトースターで砂糖を焼いたのかどうしても知りたかった私は、あらためて「もう一度、話を聞かせて」とAさんをお願いし、勤務日である土曜の夜に話を聞いた。話があっちへ飛び、こっちへ飛びしながらも、Aさんの口から出た言葉は「コーヒー」だった。

「コーヒー？砂糖を焼いたのはどうして？」

「焼いてない。落ちちゃったの」

「落ちた？…ああ、トースターの中にこぼれたってこと？」

でもトースターのスイッチを入れたのはなんで？」

「パンをね、食べようと思ったの。でもパンはなかったの」



…明け方、パンを焼きコーヒーを飲もうとしてあれこれやってみたが、うまくいかなかったということか？「なんで？」と思う行動にも、Aさんなりの目的と理由があったのであろう。たとえ、違うところに本当の理由があったとしても、向き合っただけ聞いてもらえた実感はAさんに残り、次はちゃんと伝えようという気持ちを持つことができるのではないかな。

Aさんの心にきちんと目を向ける。支援とはその積み重ねなのかもしれない。それを忘れずに支援している限り、きっと壁も扉もなく大丈夫なのではないかと思っている。

でもAさんには一言……

パンは、朝食でしょうね！

（管理者 南川 雄造）



～ 工房 時 ニュース ～

【就労移行・就労継続B型】

* 仕事をする意味 *

吹き抜ける風がなんとも心地よく感じる季節になりました。気持ちがさわやかになりますね。

さて、表紙でも紹介しましたが、工房時の就労移行支援・店舗部の松田さんが今年度早くも一般就労することになりました。いっしょに働いてきた仲間と顔を合わせることが少なくなることはさみしい気もしますが、うれしいことです。すでに就労先の社員食堂で働いている松田さんが、先日おもむく食堂にうどんを食べに、また顔を見せに来てくれました。「新しい仕事はどうか？」と聞くと「大変なところもあるけど、やっていけそう」と話していました。最初は不安もあったようですが、少し自信も出てきたようです。まだ新しい職場で働き始めて間もない松田さんですが、なんだか顔つきがきりっとしまっているようで、頼もしく見えました。

仕事をするには様々な意味があると思います。生活をしていくために、あるいは生活を豊かにするために、お給料をもらうということは一番大事なことです。ただそれだけではないように思います。松田さんの言葉を聞いて、顔つきを見て感じさせられることは「やりがい」ということです。仕事のなかにはお金を稼ぐという意味の他に、日々生活していくなかでの「やりがい」や「はりあい」といったものがあります。また仕事を任されることで自分の「やくわり」が明確になり、「人のためになっている」という意識を持つことにつながります。そのことが仕事を続けていくモチベーションになり、生きていく糧になるように思います。

所員の皆さん一人一人の一年を振り返っていくと、仕事は人を成長させるものなのだと、感じさせられます。一日一日の積み重ねの大切さを改めて認識させられます。集中力が続かず、休憩の多かった人が、自分の役割を認識し、責任感を持つことで、長い時間仕事に集中できるようになった、というようなこともあります。所員の皆さんがさらにやりがいを持って仕事ができるように、また成長できるように、日々努力していきたいと思います。



おもむく食堂には、以前工房時で働いていた、現在は一般就労している方が時折顔を見せに来てくれます。「旅行に行ってきました」と言っておみやげを持って来てくれたり、「仕事を毎日がんばって

います」と報告してくれたり、「工房時の忘年会には参加します」と伝えてくれたりします。就職された方のお母さんが来た時に「ここが原点なんです。帰って来る場所なんです」とおっしゃっていたことがありました。とてもうれしく感じました。一般就労している方々が、うれしい時、楽しい時、何かを伝えたい時、また少し疲れた時・・・立ち寄ってうどんを食べ、お茶を飲み、話をして・・・そんな癒される場所でもありたいと思います。皆さん、時間がある時は是非おもむく食堂に寄ってくださいね。

(管理者 立野信行)



アクティビティセンター はばたけ

【生活介護事業】

～人生の節目にエールを～

●節目を祝う会●

はばたけでは、毎年 2 月に『節目を祝う会』という行事があります。その年度に、人生の節目(20 歳・30 歳…)を迎えた方をお祝いする会です。その人の歩みを振り返り、共に過ごしたご家族やなかまから言葉をもらい、これからの 10 年にむけてエールを送ります。お誕生日会とはまた違い、その人の 10 年に思いを馳せ、今ここに立っている姿を誇らしく感じ、参加している人みんなが明日への活力をもらえる素敵な会です。

今年度は 3 名の方が節目を迎えられ、その内 1 名は 60 歳の還暦というめでたい節目で、ご本人の希望もあり赤いちゃんちゃんこを着ての盛大な会となりました。



花束やお手紙…なかまからのたくさんの祝福！

ご家族からのお手紙です(一部抜粋)→

四十歳のお祝い、皆に祝ってもらっておめでとう。
一歳半で障害児とわかり成長するにしがたが、育てていくのに理解できないことがたくさん出てきて、パパもママもあなたの気持ちがあんなにわかってあげられず、かわいと思うゆとりが持てずにいました。やがて、たくさん遊んでいろいろな経験を通して少しずつ成長してきまされたね。どれほどの人たちに助けられ、四十年間過ごさせてくれたことか。たくさんの人に愛され育まれてきたあなたは本当に幸せな人なんです。感謝しています。ありがとうと言えないので、たくさん笑顔で応えてください。あなたの笑顔が一番の宝物ですから。

あなたのママより

●入所式●

今年度ははばたけに入所したのは 1 名、学生時代から実習に来てくれていた夏音さん。少しずつ慣れた場所になってはいましたが、入所式となると話は違います。式の始まりには緊張と恥ずかしさがピークに達し、ステージに主役が不在！の場面も。最後は、廊下にいる夏音さんに向かって全員で「おめでとう！」と拍手を送りました。主役不在にご両親は恐縮されていましたが、みんなは余裕の表情…みんな同じ道を歩んできていて、立ち止まったり隠れたり、大きな声で叫んだり笑ったり泣いたり、体いっぱい表現しながら自分を見つけてきたので、きっとその時の夏音さんの気持ちがわかるのだと思います。みんなの「おめでとう」は「夏音さん、大丈夫だよ！ゆっくりやっていこうね！」という言葉となって、夏音さんの耳にも届いたことでしょう。

そんな夏音さんも 5 月に入り、お仕事では玉ねぎの皮むきと手織りが得意で、活動ではお菓子づくりが楽しみの様子…もうすっかりはばたけの主役のひとりになっています！

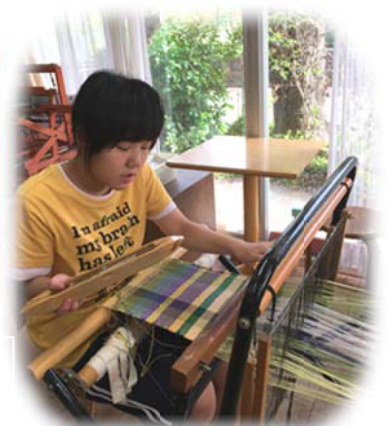
20 歳、30 歳…人生の節目に、またどんな夏音さんになっているか…たのしみです！

(管理者 入倉暁子)



お友達のアプローチに…照れちゃうな

ておりでは集中力を発揮！



サポートネットあすは

【移動支援・行動援護・

同行援護・居宅介護事業】

0さんのミュージカル鑑賞のガイドに行かせて頂きました。0さん、今回は見る側でしたが、以前何度も同じミュージカルのステージに立っておられたとのこと。素敵なミュージカルを見て、思い出の話を伺って終演。そして、帰ろうとロビーに出たところで、多くの現役の劇団員さんから「わー0さん、元気だった？」と声をかけていただきました。彼女はもちろん、ヘルパーの私も嬉しくなりました。「挨拶」っていいな。声をかけてもらおうと瞬時に距離が縮まって、こんなにも嬉しくなるんだなあとあらためて感じた一日でした。

さて、サポートネットあすはは、新年度より稲田潤一郎（いなたじゅんいちろう）という新職員が加わりました。ガイドにどんどん出て、皆さまの外出の支援を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いします。
(管理者:二口緑)

サポートネットあすは主催:知的障害者(児)ガイドヘルパー養成研修(通学)

◆日時:講義 平成29年6月10日(土)9:20~16:50

平成29年6月17日(土)9:30~18:30

実習 平成29年6月18日(日)~7月15日(土)のうち1日間

◆定員:25名

◆受講料:2,500円(テキスト代、保険料含む)※実習経費(交通費など)

◆締め切り:平成29年5月19日(金)までに申込書をサポートネットあすはまで



あすはkids【放課後等デイサービス】

BBQおいしかったね!

あすはKidsの春は、別れと出会いがあります。卒業生たちは皆、入ってきた頃と比べると大人びた表情をしていて、体はもちろん気持ちの面でも大きな成長を感じられるのが、あすはKidsの面白さだなと感じます。

さて、あすはKidsでは“あそびを育てよう”をテーマとして、子どもたちが何に興味をもつのか、どうしたら楽しめるのかを日々考えながら活動を作っています。時には、子どもたちからの「〇〇へ行きたい!」「◇◇したい!」というリクエストにこたえることもあります。「やってみたい」を実現できた時の子どもたちの表情はとても生き生きとしていて、職員としてもやって良かったと思える場面です。

3月末には高校3年生を対象に“卒業イベント”を行いました。ご家族からの「卒業の思い出になる何かを…」というお話もあり、職員間で話し合った結果「昭和記念公園でバーベキューをしよう!」となりました。当日は、お天気にも恵まれ(初めての挑戦といで準備不足等ありましたが…)、皆でお腹いっぱいになるまでお肉を食べ、バーベキューを楽しむことができました。

これからも、あすはKidsを利用している一人一人が「楽しい!」「あすはKidsに行きたい!」と思えるような、楽しい“あそび”を作っていきたいと思います!
(管理者:三浦明雄)



おおぞら会後援会ニュース

総会のご案内

新緑もまぶしく、夏のような暑さもやってまいりました。皆様いかがお過ごしでしょうか？
さて、当後援会は5月27日に総会を開催いたします。事業・財務の報告と計画を皆様にご承認いただき、新たな一年を歩んでまいります。後援会員の皆様のお力添えにより、法人運営の大きな支えが生まれます。当日は2部編成で、親睦会もございます。今後とも、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。
また、新年度になりましたので、入会・更新のお手続きも併せてお願いいたします。



社会福祉法人おおぞら会後援会
会長 吉野 壽夫

5/27(土) おおぞら会後援会総会

会場:アクティビティセンターはばたけ
総会 15:00～ 親睦会 16:00～

★後援会新規ご入会・ご更新(敬称略)

昨年度分

個人68名の方からご入会・ご更新いただきました。ありがとうございました。

★後援会へ寄附(敬称略)

個人2名、団体1社より、ご寄付をいただきました。ありがとうございました。
ご寄付は大切に使用させていただきます。

★後援会経由 法人・各事業所へ寄附(敬称略)

個人10名、団体2社より、ご寄付をいただきました。ありがとうございました。
ご寄付は大切に使用させていただきます。

* 後援会へのご入会・ご更新をお願いいたします *

年会費 1口 個人…2000円 団体…10000円

年会費は、お手数ですが直接お持ちいただくか、下記の口座にお振込みください。

郵便口座 00160-0-39163 口座名義: 社会福祉法人おおぞら会後援会

29年度

だよりを郵送の方に振込用紙を同封しております。

今年度すでにご入会いただいている皆様にも同封されておりますことを、ご了承ください。

* おおぞら会後援会とは・・・ *

社会福祉法人おおぞら会の理念に賛同し応援する団体です。皆様からいただいた会費は、おおぞら会の各事業や今後展開される事業に対する広報・ボランティア・寄付等、後援会活動に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力をお願いいたします。

information

* はばたけ オリジナル *

新作てぬぐい、できました！



前回好評だった「はばたけてぬぐい」

おかげさまで完売となり、懲りずに第2弾をつくっちゃいました！

かわいらしいピンクのお花柄！

絶賛発売中です。

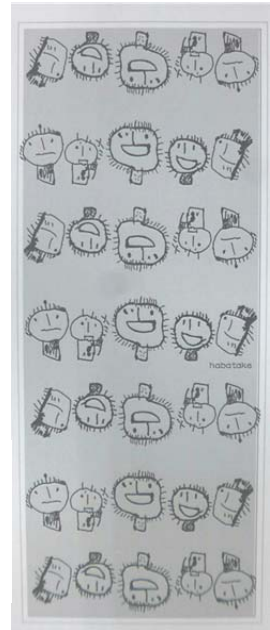
チューリップ 1000 円（税込）



こちらは製作中！

グレー地で

渋くていい感じ！



お買い求めは、はばたけ、星と風のカフェ、食堂たんなどで…

Coming Soon!

社会福祉法人おおぞら会

- | | | |
|------------------------------------|---------------|------------------|
| ・ アクティビティセンター はばたけ（生活介護事業） | 三鷹市野崎 3-17-9 | tel 0422-32-3234 |
| ・ 工房時 （就労移行事業・就労継続 B 型） | 三鷹市野崎 2-6-41 | tel 0422-30-5571 |
| ・ 野さきの家 （小規模多機能型居宅介護事業） | 三鷹市野崎 2-6-41 | tel 0422-30-5575 |
| ・ サポートネットあすは （移動支援[居宅介護]事業） | 武蔵野市八幡町 1-6-1 | tel 0422-36-5151 |
| ・ あすは Kids （放課後等デイサービス） | 武蔵野市八幡町 1-6-1 | tel 0422-36-5151 |
| ・ ショートステイさくら （短期入所事業） | 三鷹市井の頭 4-22-6 | tel 0422-32-3234 |
| ・ つながなかまの家・さくらハイツ （共同生活援助） | | |

友人に面白いと聞いて手に取ったコラム集。日ごろなんとなく感じていることをみごとに言葉にしてくれ、くすっと笑えて清々しい。作者はどうやら同い年の方らしく、どおりで私の年代に抱きがちな悩みや引っかかり、ゆがんだ感情すらも身近に感じるわけだ。でもただ愚痴や感情を吐き出すのではなく、取って付けた正解を導くでもなく、自分の中のモヤモヤを客観的に整理して上手に思考を転換したり、葛藤しながらも「こんな感情も持っていていいよね」…と軽く深呼吸するくらいの感覚で次に進む感じが心地よいのだ。私も、自分ではまあまあポジティブで切り替えもある程度できているつもり…でいる。それでも生きていくと、出口のないスパイラルに陥ること、予定どおりになんていかず、むしろうまくいかないことのほうが多い。そんな中、ちょっと言葉にしてもらえただけで、ちょっと共感を得るだけで、なんとと楽になれること！…利用者もみんな、きっとそんな寄り添いを求めているのだ。（いりくらあきこ）

発行 障害者団体定期刊行物協会 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102 〔頒価 50 円〕

企画・編集 社会福祉法人おおぞら会 編集責任者：入倉暁子